Kenko
ケンコー KF シリーズ
一眼レフカメラボディ
取扱説明書
Single-Lens Reflex
KF

目次

はじめに

このたびは、一眼レフカメラボディ「KFシリーズ」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の使用可能レンズは、P.35をご覧ください。この取扱説明書はKF-2Nをベースに説明しています。その他の機種については、異なる機能や説明が必要な場合にそのモデル番号を付けて説明しています。ご使用の前に、この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

ご使用前にお読みください。

■結婚式や旅行など大切な撮影の前には必ず事前にテスト撮影を行ってください。

■著作権や肖像権などにお気をつけください。撮影を制限されている場所もありますのでお気をつけください。
また、プライバシーを侵害するような撮影は行わないでください。

■本製品の故障およびその他の理由により生じたフィルムの破損、消失による利益損失、損害などに関し、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■本製品の使用および故障により生じた直接、間接の損害に関し、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■本取扱説明書の図、写真は説明のために作成したものです。一部実際とは異なります。

■本取扱説明書の内容の一部もしくは全部を無断で複写することは、個人で楽しまれる場合を除き禁止されています。

■製品改良のため予告なく外観、仕様などを変更することがあります。

■本取扱説明書に記載のシステム名、商品名および会社名は各社の商標または登録商標です。

安全上のご注意　必ずお読みください。

本製品を安全にご使用いただくために、下記の項目をご使用前に必ずお読みになり、正しくお使いください。

本製品を正しくご使用いただき、お使いになる人や他の人々への危害と財産への損害を未然に防止するために、次の絵表示で説明しています。

⚠危 険	⚠警 告	⚠注 意
この指示に従わないで誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う切迫した危険の発生が想定される内容です。	この指示に従わないで誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。	この指示に従わないで誤った取扱をすると、人が障害を負う可能性または、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

⚠ 危 険

■可燃性ガス、爆発性ガスなどが、大気中に存在する恐れのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

■本製品を分解したり、直接ハンダ付けするなどの加工および、火中投入などは行わないでください。発熱、発火、破裂の危険があります。

■本製品を高温の場所（真夏の車内、窓辺、暖房器具のそばなど）で使用、保管しないでください。

⚠ 警 告

■本製品で太陽または強い光源を見ることは絶対にしないでください。失明など永久視力障害の原因となります。

■本製品を歩行中、または運転中に絶対使用しないでください。交通事故の原因となります。

■本製品を足場の悪い環境や、不安定な場所で使用しないでください。事故の原因となります。

■本製品は防水構造ではありません。水をかけたり、濡らしたりしないでください。製品内部に水が入ると火災や感電、故障の原因となります。

■カメラに何らかの液体が入った場合、使用を中止してください。お近くの販売店にお問い合わせください。

■感電の恐れがありますので、濡れた手でカメラを触らないでください。

■カメラの分解や改造は行わないでください。火災や感電、故障の原因となります。内部の点検や修理は販売店もしくは当社までご依頼ください。

安全上のご注意　必ずお読みください。

⚠ 警 告

■小さな付属品を飲み込む恐れがありますので、お子様やペットの手の届く範囲にカメラを放置しないでください。

■ケーブルやストラップが首に巻き付くと窒息の危険があります。お子様の手の届かないところに保管してください。

■ポリ袋（包装用）などを小さなお子様の手の届くところに置かないでください。口にあてて窒息の原因になることがあります。

⚠ 注 意

■本製品は精密機器です。以下のような場所で使用したり放置すると火災や感電、故障の原因となることがありますので避けてください。

　●砂、ほこり、ちりの多い場所　●火の近く　●湿ったところ　●振動の激しい場所　●温度・湿度の変化が激しい場所

■カメラを落としたりぶつけたりして強い振動や衝撃を与えないでください。

■レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。集光により内部の部品が破損し、火災などの原因となります。

■電極部分などには一切触れないでください。感電や故障の原因になります。

■本製品を保管するとき、上に重い物を載せないでください。故障の原因になります。

■ストラップを持って振り回さないでください。他人に当たり、けがや事故の原因となることがあります。

その他のご注意

■電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、本製品を防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。低温により性能が低下した電池は、常温に戻ると性能は回復します。

■電池不使用と電池残量不足の場合、カメラの測光機能が作動しないため、測光インジケーターが点灯しませんが、撮影は可能です。シャッタースピード・露出は露出計等を使用して決定してください。

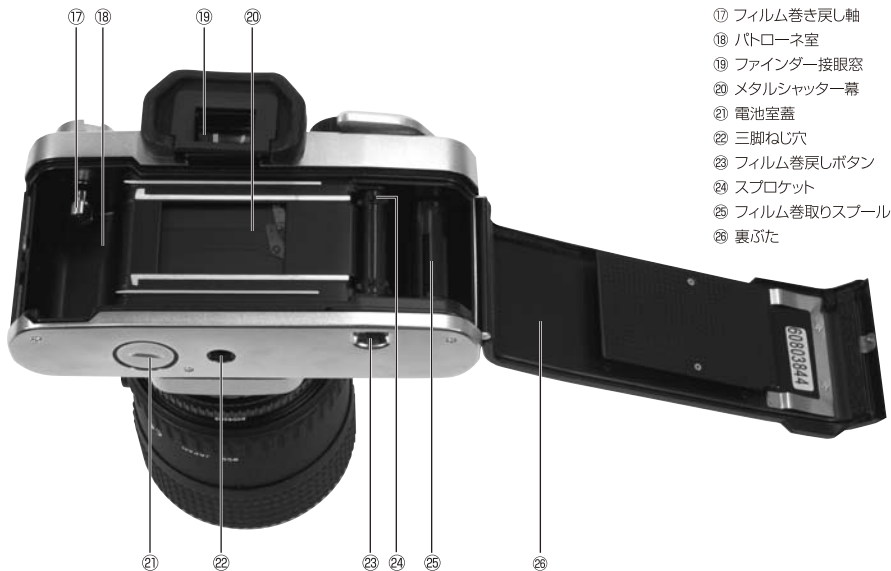
■意図的に多重撮影を行うとき以外は、写真撮影時またはフィルムを巻き上げる際、多重露出ボタンに触れないでください。前に撮影された写真と重なって撮影されます。

カメラの紹介

各部の名称

① フィルムカウンター
② フィルム巻上げレバー
③ シャッターボタン
④ フィルム感度セットリング
⑤ シャッタースピードダイヤル
⑥ シャッタースピード指標
⑦ ストロボ用ダイレクト接点
⑧ アクセサリーシュー（ホットシュー）
⑨ フィルム巻戻しノブ／裏ぶた開閉ノブ
⑩ フィルム巻戻しクランク
⑪ 多重露出ボタン
(KF-3YC、KF-4PKには装備していません)
⑫ セルフタイマーレバー
⑬ 絞込み（プレビュー）ボタン
(KF-3YC、KF-4PKには装備していません)
⑭ レンズ取外しボタン
(KF-3YC、KF-4PKでは、向かってレンズ左側となります）
⑮ シンクロターミナル
(KF-3YCには装備していません)
⑯ ストラップ吊り金具

※レンズは付属いたしません。

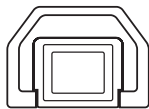
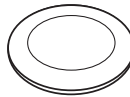
カメラの紹介

⑰ フィルム巻き戻し軸
⑱ パトローネ室
⑲ ファインダー接眼窓
⑳ メタルシャッター幕
㉑ 電池室蓋
㉒ 三脚ねじ穴
㉓ フィルム巻戻しボタン
㉔ スプロケット
㉕ フィルム巻取りスプール
㉖ 裏ぶた

カメラの紹介

セット内容

カメラ本体

ストラップ

ボタン電池

ファインダーキャップ

ボディキャップ

取扱説明書

ストラップの取付け

ストラップの取付け

付属のストラップは、写真のように取り付けてご使用ください。

写真1

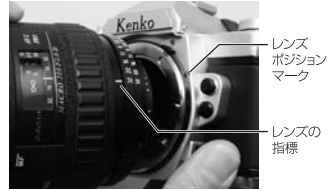
写真2

1. ⑯ストラップ吊り金具に付いた三角環に、ストラップを取り付けます。必ずストラップの先端が内側になるように取り付けてください。（**写真1**）
2. 片方で長さを調節します。黒いプラスチック環でストラップをまとめると便利です。（**写真2**）

レンズの取付け／取外し

レンズの着脱は、直射日光を避けて行ってください。

レンズの取付け（KF-1N･KF-2Nの場合）

1. 本体マウント横の赤色の点（レンズポジションマーク）に、レンズの指標を合わせます。
2. 本体マウントとレンズ側のマウントを並行にして、本体とレンズを密着させます。
3. 本体とレンズを密着させた状態で、レンズを反時計回りに「カチッ」という音がするまで回します。
   - ◆ KF-3YC、KF-4PKの場合、レンズを時計回りに「カチッ」という音がするまで回します。

●KF-1N、KF-2Nボディは、ニコンFマウントAi方式レンズのみ取り付け可能です。KF-3YCは、ヤシカ／コンタックスマウントレンズのみ取り付け可能。KF-4PKは、ペンタックスKマウントレンズのみ取り付け可能です。使用可能レンズは、P.35をご覧ください。

●レンズの取り付け後、露出計に対応する開放絞り値が自動的に設定されます。

レンズの取外し（KF-1N･KF-2Nの場合）

1. ⑭レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを時計回りに回します。
2. レンズを取り外します。

◆ KF-3YC、KF-4PKの場合、レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを反時計回りに回します。レンズ取り外しボタンは、マウントの向かって左側にあります。

電池の入れ方と電池残量の確認

電池の入れ方

1. コインなどを使って㉑電池室蓋を反時計回りに回し、電池室蓋を取り外します。
2. 付属のLR44型アルカリ電池2個を、それぞれ「+」マークのある面を上にして、下図のように電池室蓋の中に入れます。
3. 電池室蓋をカメラ本体に入れ、硬貨などを使って時計回りに回し、確実にねじ込みます。

●電池残量が不足したり、電池の入れ方が正しくないなどの場合、測光機能(露出計)が正しく動作しませんのでご注意ください。

電池の挿入と電池残量の確認

電池残量の確認

電池の挿入後、下記の手順で電池残量をご確認ください。

1. ⑤シャッタースピードダイヤルを「B」以外の位置に合わせ、レンズの絞りを任意の位置に合わせます。
2. 被写体にカメラを合わせ、⑲ファインダーを覗きます。
3. カメラの測光機能(露出計)が動作するように、シャッターボタンを半押しします。
   ファインダーの中の露出指示ランプ(LED)が点灯すると、電池残量は十分です。
4. 露出指示ランプ(LED)が点灯しない場合は、電池を入れ間違えているか、電池が消耗しています。

- ●露出計が作動しなくなった場合、市販の新しいLR44型アルカリ電池2個と交換してください。
- ●電池を入れても露出指示ランプ(LED)が点灯しない場合は、電池を再度入れ直してください。また、+側･-側を確認し、正しい方向で装着してください。
- ●長期間(数週間)の旅行などに出かけるときは、予備の新しい電池をご用意されることをお勧めします。
- ●外気温が下がると電池の容量が一時的に低下することがあります。その場合、電池を取り出し、電池を暖めてから入れ直すと電池の容量が戻ります。但し、電池を火気などで加熱しないでください。
- ●電池は小さいお子様の手の届かないところに保管してください。幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだ場合はただちに医師と相談してください。

フィルムの装填とフィルム感度(ISO)の設定

フィルムの装填

1. ⑨フィルム巻戻しノブ／裏ぶた開閉ノブを引き上げて、㉖裏ぶたを開けます。(写真1)
2. ⑱パトローネ室に、フィルムをパトローネの出っ張りのある方を下にして入れます。
3. フィルム巻戻しノブ／裏ぶた開閉ノブを元の位置まで下げて、パトローネに噛み合わせます。(写真2)
4. フィルム先端を、㉕フィルム巻取りスプールの一番近いスロット(溝)に差し込み、フィルムの穴(パーフォレーション)をスプールの溝の下方の爪に引っかけます。(写真3)(写真4)

写真1

写真2

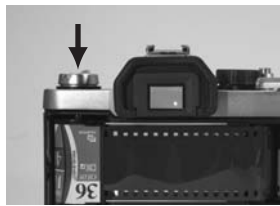



写真3

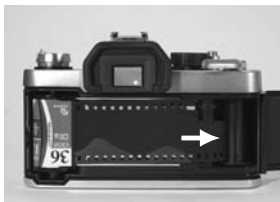



写真4

フィルムの装填とフィルム感度(ISO)の設定

4. 左手でフィルムを優しく押さえながら、右手で②フィルム巻上げレバーを完全に回します。(写真5)
   このとき、㉔スプロケットの歯車にフィルム両端の穴がしっかりと合っていることを確認し、シャッターボタンを完全に押します。
5. ㉖裏ぶたを「カチッ」と音がするまでしっかりと閉じます。
6. ⑩フィルム巻戻しクランクを持ち上げ、矢印の方向にゆっくり回してフィルムのたるみを無くします。
   クランクが重くなったら、たるみが無い状態です。(写真6)
7. フィルム巻戻しクランクを倒して、元の位置に戻します。
8. フィルム巻上げレバーを巻き上げて、シャッターをきる動作を繰り返して行い、フィルムカウンターが「1」になるまでフィルムを巻き上げます。
   このとき、⑨フィルム巻き戻しノブも同時に回っていることを確認します。

写真5

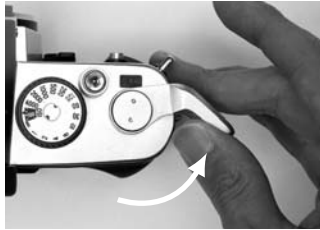



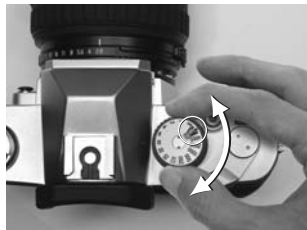
写真6

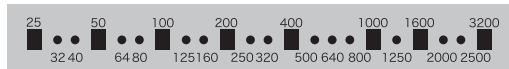
●フィルム巻上げレバーを回してもフィルム巻戻しノブが同時に回らない場合、フィルムの入れ方が正しくありません。フィルムを再度入れ直してください。
●直射日光の当たる場所でフィルムを装填したり、入れ替えたりしないでください。
●フィルムの出し入れの際に、指先やフィルムの先端がシャッター幕に触れないように注意してください。

フィルムの装填とフィルム感度(ISO)の設定

フィルム感度(ISO)の設定

カメラに入れたフィルムを正しい露出で使うためには、フィルム感度を正しく設定する必要があります。
フィルムを装填した際には、必ずフィルム感度をセットしてください。
フィルム感度は、フィルムの箱またはパトローネに「ISO100」などのように記載されています。

④フィルム感度セットリングを引き上げながら回します。フィルム感度確認窓内で、使用フィルムの感度と同じ目盛を指標に合わせます。
確実にクリックに落ち込む位置にセットしてください。目盛以外の位置に合わせると、正確な露出表示が得られません。

●フィルム感度は25、100、200、、、、、、、3200と設定が可能です。ISO感度は倍ずつ大きくなっています。

フィルム感度目盛での数字の間の点「・」は、下図の意味があります。

フィルムの装填とフィルム感度（ISO）の設定

◆ISOフィルム感度表示について

ISO表示はISO（国際基準）で規定されたフィルム感度の値です。規格が世界的に統一されるまでは、アメリカ式ASA表示とドイツ式DIN表示両方が並存していました。ASA100は、ISO100と同感度です。裏ぶた部にISO、ASAとDINの表示換算表がありますので参考にしてください。

フィルムの巻上げとフィルムカウンター

フィルムの巻上げ

フィルムを巻き上げる時は、②巻き上げレバーを右へ止まるまで回します。巻き上げレバーは、指を離すと自動的にもとの位置に戻ります。この動作が完了すると、シャッター動作が可能になります。

- ●フィルムの最後で写真一枚分のフィルムが残っていないとき、フィルム巻上げレバーは最後まで完全に回りません。
- ●フィルム巻上げレバーを完全に回さず、途中で止めてしまった場合、フィルム巻上げレバーは空回りの状態で元の位置に戻ります。再度フィルム巻上げレバーを完全に回してください。

フィルムカウンター

フィルムカウンターは、加算式の表示となっています。①フィルムカウンターに表示される数字は、当該フィルムの撮影回数を表します。

1. フィルムカウンターは「S‥1‥4‥6、、、、36‥」と順に表示されます。
   点「‥」は、1カットを意味します。
2. フィルム巻上げ動作が完了すると、このフィルムカウンターが加算されます。
3. 新しいフィルムを装填し、フィルムカウンターに「1」と表示されると、写真撮影が可能になります。
4. ㉖裏ぶたを開くと、フィルムカウンターには「S」と表示されます。

- ●フィルムに記載された枚数よりも多く撮影できる場合があります。
- ●フィルムカウンターは、フィルムの有無に関係なく作動し、巻き上げ操作が完了した時に1目盛づつ進みます。
- ●多重露出を使用する場合、フィルムカウンターは加算されません。

ファインダー

 ファインダー

KFシリーズ一眼レフカメラは、マニュアルフォーカス式一眼レフカメラのため、ファインダーでピントを確認し、撮影者自身でピント合わせをする必要があります。そのため、倍率0.91の見やすいファインダーを採用いたしました。

●KFシリーズ一眼レフカメラは、ファインダー視野率が約92%です。実際に写る範囲は、ファインダーで見える範囲より若干広くなります。

ピントを合わせる

シャープな写真を撮影するには、ピントをしっかりと合わせる必要があります。KFシリーズ一眼レフカメラは、3種類の合焦方法が使えるスクリーンを採用しています（斜スプリットイメージプリズム・マイクロプリズム・マット面）。これらの合焦方法は、下図に示す、㉗斜スプリットイメージプリズム、㉘マイクロプリズム、㉙マット面を使用します。特に斜スプリットイメージプリズムは、早く正確にピントを合わせることができるため、一般的に使用されています。

 斜スプリットイメージプリズム

使用するレンズの開放F値がF4よりも明るいレンズの場合に有効な合焦方法です。

1. ㉒ファインダーで被写体を捉え、斜スプリットイメージプリズムを、被写体のなかで縦または横の直線となる部分に合わせます。
   例（下図の場合）：橋脚など
2. 像は、斜スプリットイメージプリズムの円内で二分割されています。レンズのピントリングを回転させると、像のズレ量が変化します。
3. レンズのピントリングを回転させ、斜スプリットイメージプリズムの2つズレがなくなる（斜スプリットイメージプリズム内の像が完全に一枚の絵となる）状態になるよう調整します。この状態の場合、被写体にピントが合っています。また、ピントリングに記載されている距離表示により、被写体とカメラの距離を確認できます。

ピントを合わせる

マイクロプリズムとマット面

F4.5より暗いレンズや自動絞りではないレンズをF4.5より絞り込んで使う場合、または接写の場合は、ファインダーの中央部（㉗マイクロプリズム部内）ではピントが合わせにくくなります。周囲の㉘マット面でピントを合わせてください。

1. マイクロプリズム上の像が波打っているように見えたり、マット面上の像がぼやけて見える場合はピントが合っていません。
2. マイクロプリズム上の像とマット面の像の両方が明るくはっきりとに見える場合は、ピントが合っています。

1. ピントが合っていない

2. ピントが合っている

- ●被写体にピントを合わせる場合、2つ以上の合焦方式を自由に使用することができます。
- ●F値がF4.5より明るいレンズを使用しているにもかかわらず、斜スプリットイメージプリズムを使用している場合、斜スプリットイメージプリズムの画像が暗いことがあります。これはカメラの異常ではありません。ファインダーを覗く撮影者の視点がずれたために起こる現象です。
- ●マイクロプリズムを使用している場合、ピントが合っているにもかかわらず被写体が暗く見えることがあります。これは中心の被写体と周囲の明暗差が大きいために起こる現象です。
- ●被写体が直線的ではない場合、マイクロプリズムを使用してピントを合わせた方が良い場合があります。プリズムの中央の光が暗い場合、マット面を使ってピントを合わせることも可能です。

適正露出の決め方

シャッタースピード優先撮影の場合

50mm標準レンズを装着し、ISO100フィルム使用時のシャッタースピードの一般的な目安は、表の通りです。

撮影状況	シャッタースピード（秒）
薄暗くて、静止している被写体	1〜1/15
一般的な室内	1/30〜1/60
晴れた屋外	1/125〜1/250
真夏の海辺	1/500〜1/2000
雪山	1/500〜1/2000
動きの速い被写体	1/500〜1/2000

- ●シャッタースピードの目盛りは、「2000」は1/2000秒を、「1」は1/1秒を、「B」はバルブ撮影を表しています。
- ●シャッタースピードは、被写体が明るいほど、被写体の動きが速いほど、使用フィルム感度が高いほど、高速にセットします。
- ●望遠レンズ装着時は、手ぶれの影響が大きいため、できるかぎり速いシャッタースピードを選んでください。一般に使用レンズの焦点距離数字以上のシャッタースピード、つまり135mmレンズなら1/250秒以上、300mmレンズなら1/500秒以上をおすすめします。

露出の決め方

絞り優先撮影の場合

絞り値は被写体の明るさ、被写界深度のとり方、使用フィルム感度などによって選びます。
ISO100のフィルム使用時の一般的な絞り値の目安は、表の通りです。

撮影状況	絞り(F)
薄暗いとき	F1.4〜F2
被写界深度を浅くしたい場合	F1.4〜F2
一般的な室内	F2〜F4
曇天の屋外	F4〜F8
晴れた屋外	F11〜F16
真夏の海辺	F16〜F22

●絞りはクリック位置以外の設定も可能です。
●絞りはフィルムに届く光量の調整と、被写界深度の調整です。

測光(露出計)

測光(露出計)

カメラに内蔵された露出計を使用すると、被写体に合致する露出の目安を設定することができます。本製品にはSPD(シリコンフォトダイオード)測光素子が使用されています。

1. それぞれの撮影状況に合わせて、絞りを設定します。
2. ⑤シャッタースピードダイヤルを回し、2000(KF-2Nは4000)〜1までのいずれかにシャッタースピードを設定します。
3. シャッターボタンを半押しすると、カメラの内蔵露出計が作動します。

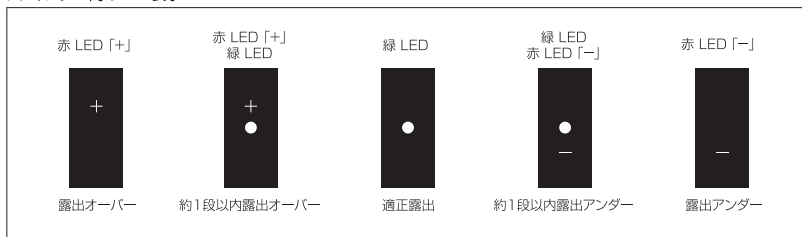
●カメラ内蔵の露出計はTTL方式による中央部重点測光のもので、順光時で輝度差の少ない被写体の場合、適正な露出値が表示されます。

測光（露出計）

●適正露出の場合
⑲ファインダー内に、緑色LEDのみが点灯します。これが適正露出であることを意味します。
緑色LEDと同時に赤色LED「+」または「ー」が点灯する場合、1段以内の露出オーバー（「+」の場合）、1段以内の露出アンダー（「ー」の場合）を意味します。

●露出オーバーの場合
赤色LED「+」のみ点灯します。
絞りを絞り込む方向に回すか、シャッタースピードをより速くする必要があります。

●露出アンダーの場合
赤色LEDの「ー」のみ点灯します。
絞り開く方向に回すか、シャッタースピードをより遅くする必要があります。

ファインダー内のLED表示

●測光中は、ファインダーに目を当ててください。
ファインダーから余計な光が入り込み、測光が正しく行われないことがあります。

被写界深度

被写界深度

被写体にピントが合っている場合、ピントが合っているように見えるのは、被写体の前後のある特定の範囲内だけです。
これを被写界深度と言います。カメラの撮影距離・レンズの焦点距離・絞り値が、被写界深度を決定しています。

○ 絞りを絞り込むほど、被写界深度は深くなります。
○ 被写体との距離が遠いほど、被写界深度は深くなります。
○ レンズの焦点距離が短いほど、被写界深度は深くなります。

F3.4

F16

絞り込み（プレビュー）ボタン

被写界深度の確認　KF-3YC、KF-4PKには、この機能はありません。

KFシリーズ一眼レフは開放測光方式を採用しており、普段は装着レンズの絞り開放状態で被写体を確認しますが、プレビューボタンを操作することで実際の被写界深度をファインダー上で確認できます。

1. 被写体にピントを合わせます。
2. ⑬絞り込みプレビューボタンを押します。
3. シャッターをレリーズする前に、レンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダーから被写体の前後の焦点距離（ピントの合っている範囲）が確認できます。

- ファインダーから像がシャープに見える場合、撮影した写真でも同様に、シャープに撮影されます。
- 絞り込みプレビューボタンを押した状態でシャッターボタンを押したり、フィルムを巻き上げたりしないでください。故障する恐れがあります。

露出の設定

露出の設定

KFシリーズ一眼レフカメラは手動で露出を設定します。
内蔵露出計の測光の結果にしたがって、シャッタースピードや絞りを変更して露出を調節します。

1. レンズの絞りリングを回し、絞りを設定します。
2. ⑤シャッタースピードダイヤルを回し、シャッタースピードを設定します。
3. カメラを被写体に向けて、被写体の露出を計測します。
4. 測光結果に基づいて、シャッタースピードおよび絞りを調整します。

露出補正

被写体と背景との明暗差が大きい場合や被写体が黒い場合、または白い場合、カメラ内蔵の露出計では正確に露出を計測することは困難です。
この場合、カメラが表示した基準となる露出値を意図的に変化させ、意図に合った露出が得られるように調整します。
また、別売のケンコー露出計をご使用いただけば、被写体の色合いにかかわらず適正露出を得ることができます。

●背景に明るい光源がある場合、シャッタースピードをより遅くするか絞りを開くことで露出補正することができます。

写真撮影

写真撮影

1. 絞りとシャッタースピードを設定します。
2. ②フィルム巻上げレバーを操作して、フィルムを巻き上げます。
3. カメラのピントリングを回して、ピントを合わせます。（写真1）
4. 構図を決めます。（写真2）
5. ③シャッターボタンを押して、写真を撮影します。（写真3）

写真1

写真2

写真3

●50mmレンズ使用時、シャッタースピードが1／30秒より遅い場合は、手ブレを防ぐため、三脚を使用してください。
望遠レンズでは、さらに速いシャッタースピードでも手ブレが発生する恐れがあります。
●撮影時にレンズを指で覆い隠さないようにご注意ください。写真に写り込む可能性があります。

写真撮影

セルフタイマー

記念撮影などで、自分も一緒に写したいときにご利用ください。
KFシリーズ一眼レフのセルフタイマーは機械式の10秒タイマーです。

1. カメラを三脚に取り付けます。三脚のカメラ取付けネジでしっかりと固定します。
2. ②フィルム巻上げレバーを操作してフィルムを巻上げ、⑫セルフタイマーレバーを下ろします。
3. 絞りとシャッタースピードを設定し、ピントを合わせます。
4. 構図を決めて、③シャッターボタンを完全に押します。
5. セルフタイマーが作動し、10秒後にシャッターが下ります。

◆ミラーアップ機能について
セルフタイマー使用時、シャッターが作動する前にミラーを持ち上げます。シャッターが作動した後、ミラーは元の位置に戻ります。この機能は、シャッターレリーズ時にミラーを持ち上げるとミラーが揺れ、それによって撮影された写真がぶれてしまう事を防止する機能です。

●セルフタイマーを使用する場合、必ずフィルム巻上げレバーでフィルムを巻上げてから、セルフタイマーレバーを下まで押してください。
●セルフタイマーは途中でキャンセルすることはできません。

写真撮影

ストロボ撮影

KFシリーズ一眼レフカメラは、外部ストロボの使用が可能です。⑧アクセサリーシュー（ホットシュー）と、⑮シンクロターミナル（KF-3YCには装備していません）の2つの接点があり、同時に2つのストロボを使用することもできます。

1. シュー付きのストロボの場合、カメラのアクセサリーシュー（ホットシュー）に取り付けます。グリップ式ストロボの場合、グリップ部をカメラの㉒三脚ネジ穴に固定してから、シンクロソケットにシンクロコードを取り付けます。
2. シャッタースピードは1／125秒以下に設定します。
3. レンズの絞りをセットします。ストロボを外部オートモードでご使用の場合は、ストロボの取扱説明書に従って絞りをセットします。ストロボをマニュアルモードでご使用の場合、下の式から得られる絞りをセットします。

   レンズの絞り（F） ＝ ガイドナンバー（GN） ÷ 撮影距離（m）

- ●シャッタースピードが250、500、1000、2000、（または4000）に設定されている場合、ストロボは同調しません。
- ●手持ち撮影時にストロボ撮影を行う場合、シャッタースピードは1／125秒に設定してください。
- ●お使いのストロボの取扱説明書をご覧ください。

写真撮影

多重露出撮影　KF-3YC、KF-4PKには、この機能はありません。

KF-1N、KF-2Nには多重露出機能が付いています。同一コマ上に複数回の露光を与えることにより、特殊な効果を出すことができます。一回目のシャッターを押したあと、⑪多重露出ボタンを完全に押したままの状態で②フィルム巻上げレバーを操作します。多重露出ボタンから指を離し、元に戻します。このとき、シャッターはセットされますが、フィルムの巻き上げは行われていないため、一回目と同一コマ上に再度撮影することができます。

（B）撮影

露出時間を1秒より長く設定する場合、⑤シャッタースピードダイヤルを「B」に設定します。

1. カメラを三脚にしっかりと取り付けます。
2. シャッタースピードを「B」に設定します。
3. ②フィルム巻上げレバーを操作してフィルムを巻上げ、ピント・絞りを合わせます。
4. ③シャッターボタンをフィルムに露光させたい時間だけ押し続け、指を離します。
   指を離した時点でシャッターが閉じます。

- ●レリーズケーブルを使用する場合、シャッターボタン上部にあるシャッターソケットに接続してください。

フィルムの巻戻し

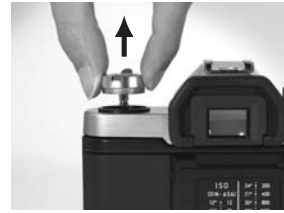
フィルムの巻き戻し

フィルムを使い切ってしまった場合や、フィルムを途中で取り出したい場合は、フィルムの巻き戻しを行います。

1. ㉓フィルム巻戻しボタンを押します。(写真1)
2. ⑩フィルム巻戻しクランクを起こし、矢印の方向に回します。(写真2)
3. 巻き戻しの手ごたえが軽くなったら、巻き戻し完了です。フィルム巻戻しクランクを元の位置に戻します。
4. ⑨フィルム巻戻しノブを引き上げ、㉖裏ぶたを開けます。(写真3)
5. フィルムを取り出します。

写真1

写真2

写真3

●カメラを長期間使用しない場合、カメラの電池を取り外してください。
●フィルムの取り出しは、直射日光の当たらないところで行ってください。

仕様

仕様項目＼モデル	KF-1N	KF-2N	KF-3YC	KF-4PK
タイプ	35mmフィルム 一眼レフカメラ			
フィルムサイズ	24mm × 36mm			
レンズマウント	ニコンFマウント(Ai方式)		ヤシカ／コンタックスマウント	ペンタックスKマウント
シャッタータイプ	上下走行式フォーカルプレーンシャッター			
シャッタースピード	B、1秒～1/2000(13スピード)	B、1秒～1/4000(14スピード)	B、1秒～1/2000(13スピード)	
セルフタイマー	機械式タイマー　作動時間10秒(解除不可)			
シンクロ接点	X接点のみ、シャッタースピード 1／125秒以下対応			
シンクロターミナル	装備		非装備	装備
多重露出	多重露出ボタンにより可能		非装備	
測光方式	TTL中央部重点測光方式			
受光素子	シリコンフォトダイオード(SPD)			
測光範囲	EV5~EV17(ISO100／21° F1.7)	EV5~EV18(ISO100／21° F1.7)	EV5～EV17(ISO100／21° F1.7)	
フィルム感度	ISO25～ISO3200			
電池(測光用)	1.5V、LR44型アルカリ電池2個　または　1.55V、SR44型銀電池2個			
ファインダー	ファインダー視野率 約92%、倍率0.91(被写体距離無限大時)			
合焦スクリーン	斜スプリットイメージプリズム、マイクロプリズム、マット面			
被写界深度の確認	プレビューボタン付		非装備	
フィルム巻上げ	一作動レバー巻き上げ式(予備角度20°、巻き上げ角度120°)			
フィルム巻戻し	巻き戻しボタン、巻き戻しクランクによる。			
フィルムカウンター	機械式加算カウンター、裏ぶた開放により自動復帰			
寸法	約138mm × 60mm × 90mm		約138mm × 59mm × 87mm	約138mm × 60mm × 90mm
重量	約520g		約420g	約440g

カメラのお手入れ

カメラのお手入れ

○ カメラの操作は優しく行ってください。操作中に操作が重くなったりした場合は、故障の可能性があります。
強い力での操作は絶対に行わないでください。

○ カメラを外気温45℃以上の場所（夏場の車の中など）に長時間放置しないでください。
また、寒い環境下では、カメラを体温等で温めてから使用してください。

○ カメラを急激な温度変化の中で使用しないでください。レンズが結露したり、カメラ内部で結露となり、故障の原因となります。
急激な温度変化で使用する場合は、カメラバックに入れたままの状態で、暫くその温度に慣らしたあとに使用してください。

○ カメラを塩気の多い場所、雨や雪の中、砂埃の多い場所等で使用した後は、
必ずレンズクロス等でレンズをよくクリーニングしてください。

○ カメラに付着したほこり、砂、汚れなどは、市販のシリコンクロスやブロワーなどで取り除いてください。

○ カメラは湿気のない乾燥した場所に保管してください。

○ カメラを保管する前に、湿気をよく拭取ってください。

○ 長時間カメラを使用しない場合、シャッターを切った状態で保管してください。又、電池を取り外してください。

使用可能なレンズ

KF-1N、KF-2Nに使用可能なレンズ

ニコンFマウント（Ai方式）レンズがご使用いただけます。、また、Ai改造レンズ、Ai方式に準拠したレンズは使用可能です。

◆Ai方式以外で取付可能なレンズは

- ・レフレックスニッコール　500mm F8
- ・レフレックスニッコール　1000mm F11　（製品No.140001～142360 および No.143001以降）
- ・レフレックスニッコール　2000mm F11　（製品No.200311以降）
- ・PCニッコール　28mm F3.5
- ・PCニッコール　28mm F4　（製品No.180901以降）
- ・PCニッコール　35mm F2.8　（製品No.851000以前 および No.90620以降）
- ・メディカルニッコール　120mm F4

●使用可能レンズ以外で無理にレンズを取り付けますと、ボディを破損したり、レンズの着脱ができなくなることがあります。機械的に取付が出来ない場合もあります。

●AFニッコールGタイプ、DXニッコール及びそれに準じたレンズは絞りリングがなく、絞りがセットできないため、取付は可能ですが使用できません。

●Ai方式以前のニッコールレンズ、またはそれに相当するレンズは使用できません。
レンズの露出計連動爪が「穴が開いたタイプ」かどうかご確認ください。

使用可能

使用不可

使用可能なレンズ

◆KF-1N、KF-2Nに使用可能なトキナーレンズ

・AF-X828 AF PRO	80-200／2.8
・AF-X340 AF Ⅱ	100-300／4
・AF-X235 AF PRO	20-35／2.8
・AF-X242 AF	24-200／3.5-5.6
・AF-X17 AF PRO	17mm F3.5
・AF-X280 AF PRO	28-80／2.8
・AF-X840 D	80-400／4.5-5.6
・AF-XM100 PRO	100mm F2.8マクロ
・AF-X300 AF PRO	300mm F2.8
・AF-X840 AF、AFⅡ	80-400／4.5-5.6

・上記以外にも、ニコンAi方式に対応するトキナーレンズは使用可能です。

使用可能なレンズ

KF-3YCに使用可能なレンズ

コンタックス･ヤシカ マウントのレンズがご使用いただけます。

◆取付可能なレンズは

・ヤシカMLレンズ
・コンタックスAE／MMレンズ

●コンタックスG および Nレンズは使用できませんのでご注意ください。

KF-4PKに使用可能なレンズ

ペンタックスKマウントのレンズがご使用いただけます。

◆取付可能なレンズは

・SMC ペンタックスシリーズ
・SMC ペンタックス AFレンズ
・SMC ペンタックス Fシリーズ
・SMC ペンタックス D FAシリーズ
・SMC ペンタックス - Mシリーズ
・SMC ペンタックス - Aシリーズ
・SMC ペンタックス FAシリーズ
・上記以外にもKマウントに対応する交換レンズが使用可能です。

使用可能なレンズ

KF-4PKに使用可能なレンズ（続き）

◆ペンタックス社製のマウントアダプターを介して取付可能なレンズ

「マウントアダプターK」を介して取付可能

- オートタクマーシリーズ
- SMC タクマーシリーズ
- スーパータクマーシリーズ
- 上記以外にも、ペンタックスSマウントに対応する交換レンズが使用可能です。

「67レンズ用アダプターK」を介して取付可能

- smc ペンタックス67 交換レンズ

「645レンズ用アダプターK」を介して取付可能

- smc ペンタックス645 交換レンズ
- smc ペンタックス645 FA 交換レンズ

●SMCペンタックスFAJシリーズ、SMCペンタックスDAシリーズは使用できませんのでご注意ください。

●Kマウントレンズ、「マウントアダプターK」を介して取付できるペンタックスSマウントレンズ(M42マウント、プラクチカマウントレンズ)には様々なメーカーのものがあり、規格外のものが存在します。取り付けが固い場合は無理をせず、使用しないでください。